

# 会派視察研修報告書

平成29年3月27日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名 加藤 厚雄

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員2名分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	加藤厚雄・大竹敦子
日時	平成29年2月8日（水）～2月9日（木）
視察先	群馬県草津町、富岡市
研修内容	草津町：最終処分場の現状と今後の展望について 富岡市：ふれあいの居場所づくりについて
日程	2/8 草津町 13:30～14:30 2/9 富岡市 9:00～13:00
備考	

# 視察研修報告書

平成29年2月21日

議員氏名 加藤厚雄

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

## 記

- 1 期 間 平成29年2月8日（水）～平成29年2月9日（木）
- 2 視 察 先 群馬県草津町、富岡市
- 3 視察の種類 会派視察（公明党）
- 4 視察の成果等

### 草津町 一般廃棄物最終処分場

(株)ウィズウェイストジャパンは、関東圏や中部圏を中心とする市町村から排出される一般廃棄物の最終処分を中心に、廃棄物処理施設の設置運営を行っており、碧南市からの最終廃棄物を受け入れている。

全国の一般廃棄物最終処分場の残余年数は年々減少し、施設の確保は喫緊の課題であるとともに排出者責任の観点から、より安全な最終処分場が求められている。

処理施設会社は、草津町住民を始め、草津町の関係者の理解と群馬県の指導のもと、平成22年1月に「新草津ウェイストパーク」（一般廃棄物最終処分場）を完成した。（所在地は群馬県吾妻郡草津町大字前口字井堀 面積41,866㎡ 処理容量850,000㎡）

受け入れ自治体は、約90団体で180市町村であり、受入量は年間10万トン程度である。衣浦衛生組合からは、年間600トン受入している。残余容量は、平成28年12月31日で271,817㎡で、残余年数はあと3年の平成32年3月までである。廃棄物の減量化、リサイクルを推進しても副産物は発生するがゆえに、最終処分先の確保が課題となる。

「新草津ウェイストパーク」（一般廃棄物最終処分場）の現地視察のおり、会社としては、次の最終処分場を検討計画しているとのことであった。

### 富岡市 ふれあいの居場所づくり事業

高齢化社会、一人暮らし世帯の増加、人間関係の孤立・不安、高齢者の虐待・認知症、2025年問題等を鑑み、富岡市では絆の深い、活気ある街を作りたいとの思いから行政だけではなく、住民同士が支えあい、地域づくりに参加し、誰もが住み慣れた場所で、人と人とのつながり溢れる中で、自分らしく生きがいをもって暮らしていきたいとの思いから「ふれあいの居場所づくり」が平成23年から始まった。いつでも、だれでも気楽に立ち寄り、自由な時間を過ごす事ができる場所であり、居場所立ち上げの勉強会、視察研修会、立ち上げ希望者の相談もあり、立ち上げ支援の補助金制度がある（30万円）。現在は、市内に18か所あり、平成27年の参加者は13,836人である。

# 視察研修報告書

平成29年 3月27日

議員氏名 大竹 敦子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

## 記

- 1 期 間 平成29年2月8日（水）～平成29年2月9日（木）
- 2 視 察 先 群馬県草津町、富岡市
- 3 視察の種類 会派視察（公明党）
- 4 視察の成果等

### 草津町「一般廃棄物最終処分場」について

草津町は、全国的にも温泉で有名な観光地である。町の収入の92%は観光ということである。その中でも、進化を続けるまちづくりを目指している。人口は、6,500人であるが、30,000人の観光客に対応可能なインフラを整備している。

この観光地である草津町の前口地区に、碧南市の衣浦クリーンセンターから出る焼却灰の最終処分場となる「(株)ウィズウェイストジャパン」がある。この度、碧南市の焼却灰の最終処分場となっているこの施設を視察させていただいた。町中から少し北に入った自然に囲まれた広大な敷地で、大変環境に配慮した施設であった。地域貢献として、すでに埋め立てられた場所は、グラウンドとして地域に開放されている。また、有機野菜の栽培もされている。自然環境に影響を与えられるこうした一般廃棄物最終処分場を誘致することは、自治体、また地元の方々にとっても大きな決断が必要であったと思う。そうした地元の決断を後悔させないための事業主、搬入する側の努力も欠かせない必須要件となる。碧南市としては、搬入を委託している委託業者への搬入方法などのチェック機能を厳しく監視することも必要だ。

焼却灰の最終処分場としての埋め立て用の場所もほぼ8割方埋め立てられていた。数年後には次の場所を確保しなければならないということで、現在交渉中とのことである。各自治体から出る焼却灰の最終の処分場としてこのような施設はなくてはならない施設である。今後も、地域住民の安心安全を確保しつつ、信頼を崩すことのない維持管理に努めていただき、碧南市の焼却灰の搬入先として利用できる取引先であっていただきたいと切に望むところである。

## 富岡市「ふれあいの居場所づくり事業」について

富岡市は、人口約5万人、そのうち、65歳以上は1万5,600人、高齢化率31.5%と全国の10年先の高齢化社会となっている現状に危機感を持つ。その上、昨今の社会現象である核家族化により人間関係が希薄になり、隣近所の付き合いもなく、家から出かけることもほとんどない。こうした状況にかんがみ、いつでも、誰でも気軽に立ち寄り、自由に過ごすことができる場所、そして、その場所で人と人がつながりを作り、絆が生まれ、やがて助け合い、支え合う関係を作るふれあいの居場所づくりを始めた。その居場所は地域住民にとって健康づくりの場であり、介護予防の場であり、認知症予防の場でもある。また、若い世代の人たち、子どもたちにとって子育て支援の場であり、生活支援、学習支援の場所にもなっている。まさに、住民同士が、世代を超えて、支え合い、助け合う場所となるものであり、絆の深い地域づくりを進めている。

居場所づくりには、行政側の支援として、きっかけづくりになるような立ち上げのための勉強会の開催、先進地への視察の実施、立ち上げ希望者への個別相談の実施、補助金の予算措置などを進めた。年3回の勉強会には160名の参加があり、初年度となる平成24年に9か所、平成25年度に8か所、計17か所が設立された。平成28年度には新たに3か所が開設され、現在、21か所になっている。

運営は、ボランティアで、気楽に取り組んでいただき、各居場所によって事業内容も様々、社会資源や地域の特性を生かし、自由に思いのままに取り組んでいる。

補助金は、一般会計から、「地域支え合い体制づくり事業補助金」として、補助率10分の10、上限30万円となっている。

私たちが、視察させていただいた「ふれあいパーク岡成」にも、地元のNPOの方、5、6名の役員の方々が集まってくださり、生き生きと活動内容の報告をしてくださった。とても、生きがいを持って取り組まれている様子がにじみ出ていてよくわかった。高齢化率が高いといっても、一気に21か所の居場所が立ち上がってしまう、富岡市というまちには、地域力が高く、まちづくりに関心が高い人達のパワーがみなぎる、とても若々しいまちだと感じた。また、高齢者も若い人も、みんな一緒に大きな家族のように暮らすことを目指し、実際に実行されているまちであり、とても安心して暮らし続けられるまちだと感じた。一人一人がみな主体者で、元気に満ち溢れているようだった。

碧南市においても、認知症カフェなどが数か所立ち上がってきており、機運が高まって来ている証拠である。地域の様々な人が集い合える居場所はこれからどんどん必要となってくる。地域のコミュニケーション、地域力の向上を目指し、もっと、立ち上げのための説明会、勉強会などを積極的の市民に、門戸を広げ、市民の力を信じて進めていくべきである。